



卒業記念号

編集発行
園田学園女子大学
シニア専修コース
「けやき便り」編集クラブ



ご卒業のみなさまへ

総合生涯学習センター
所長 松成 雄三

みなさま ご卒業おめでとうございます。

月並みなご挨拶ではありますが、みなさまの年齢で3年間の学びを修了されるということは、簡単なことではないと存じます。

なによりもご自身の健康！そしてご家族のご健康やその他みなさまの学びに障害もなくここまで来れた結果であり、よろこばしいことであると存じます。

今回の卒業式は8回目ではありますが、情報学科では、初めての卒業式となります。

これまでに、このシニア専修コースに入学された方はこの10年間で実に541名にのぼります。本学のような小規模の大学が、3年間の生涯学習コースを設置したところ、毎年平均で50名強の方が入学し続けているというのは、司馬遼太郎風に云いますと「奇跡と言ってもいいほど誇っていい」ことではないかと思うのです。

これには手前味噌ながら大学も頑張ったわけですが、それ以上に受講生に恵まれたことでもあると思うのです。だからこそ、10年間も続

いたし、一方ではこの程度の入学者数なのかも知れません。

3年制の生涯学習の場は、いまだに日本でも本学だけですが、オープン当初はこちらも手探り・手作りでした。最初のころ受講生のみなさまから「自分たちは試験台か？」と詰問をうけたこともありました。

十年一昔と申しますが、これからこのシニア専修コースも少しずつ変化していくと思われます。本学も変化していきますが、みなさまの原動力にも期待したいと思います。

引き続き「研究生」として本学のキャンパスライフを楽しんでいただき、更には「受身」の学びから「フィードバック」や「発信する学び」の生涯学習へ牽引役になっていただきたいと思います。

「生涯学習」とのコトバの通り、これからも生涯学習に取り組んでいただき、歳はとってもいつまでも若々しくあり続けていただき、次代への橋渡しとなってくださることを願ってやみません。

文学歴史学科 (文学Ⅲ)



文学歴史学科 (史学Ⅲ)



文学歴史学科

喜び・新しき仲間

文学歴史学科 大坂 修一

「さて、会社退任後何をしようか？今まで経験した事のない分野に一足踏み出すのも面白そう！」と、文学・歴史を選んだのが学園生活の第一歩であった。新しい友との出逢い、新しい分野の経験は素晴らしかった。これまでは教科書に数行書かれた知識だけの文学・歴史にしか接触していない理工系どっぴりの小生にとり、万葉集・風土記、地域史、源氏物語、夏目漱石等を通年にわたり系統的に受けた授業は、その事象の背景・周囲環境などを聞かたびその深さ広さに驚き、発見の日々でした。また“アラ還”の良き仲間の皆さんと夏休み・冬休みに週1回教室を借りての源氏物語の自主学習、毎回参加者全員が原文と現代訳とを数行ずつ数回朗読しながらこの文の主語は何、情景はどうだこうだ意見を交換しながらの勉強会、進捗は極めて遅いものの毎回充実感のあるものでした。それに加えてよき仲間Fさんの手ほどきで和歌の習字や写経を行ったが、皆、雑談も忘れて真剣、筆を握るなんて小学校の習字以来、でも終えた後はなるほどと感激の至り、年賀状の一部を毛筆で書いてみようかと思う此の頃、これも新しき友から得た大きな喜び、とても楽しく、短い3年、まだまだ若いぞ！研究生で居残りをしよう！！

園田シニアに乾杯！

文学歴史学科 齋藤 洵子

60代になると、自分の2ヶ月先の有り様も予測できないものです。

私にとって、3年間のシニア専修コースは、とても高いハードルでしたが、「今はできる！」と飛び越えてみました。

そして三年間、夫の母の大往生はあったもの

の、ほとんど休むことなく通学する事ができました。

そこで得たもののなんと多いこと！

☆プロの授業の素晴らしさ。授業中は、新鮮な風が脳に吹き込んで来るような感じです。学ぶ楽しさを存分に味わいました。

☆素晴らしいクラスメイトに出会えたこと。夏・冬休みに復習に励んだり、講義内容に添った散策をしたり、時に飲み会をしたりと、楽しい時間を沢山過ごしました。

☆先生方の案内で、観光旅行では行けない所へも連れて行っていただきました。

先生は、カリスマガイド兼添乗員の如しですし、運転手さんは、鈴鹿サーキットで運転技術を磨いたような方で、心地よく、楽しい、そして少し賢くなれたかのようなバスツアーでした。

入学をして、仕事とは違った世界の広がりを得ることができました。

これからも、元気でお金が続く限り、園田で学び続けます。「夫よ、元気でいてよね。」と切に願いながら。

最後になりましたが、生涯学習センターの方々には、大変お世話になりました。ありがとうございます。そして、これからもよろしくお願ひします。

卒業雑感

文学歴史学科 寺戸 健三

不思議なもので、どうもこの年になると過去の史実に興味が湧いてきたようである。

ちまたでは、いろんな大学や文化センターでこの種の市民講座が華やかである。

あれこれ探して行きついたら、ここ園田学園女子大のシニア専修コース。

願書を出すに際し、女子大というのがかなり引っかかった。

そんな中に、しかも男の老人がポッと行くのは、いささか違和感を覚えるに違いないと思ったからである。

興味を満たさんと勇気を振り絞って願書提出、入学許可書が送られてきた。初年度の必須は、日本文学と日本史学でどちらも有名先生の登場である。

万葉集、日本書紀や兵庫の歴史などはまさに興味ある面白い内容であった。

2、3学年はあっという間に過ぎ去って、もうすぐ卒業だという。

この3年間はいいい仲間に恵まれたし(忘年会、新年会、授業が終わったといつては食事会へ)、またシニアのコーラス「けやき」に入部し、歌も唄わせて貰い、楽しい学園生活を過ごさせて頂いたことに感謝している。

卒 業

文学歴史学科 水谷 文英

今、私は、この文を園田の図書館で考えている。この事自体、三年前には思いもよらなかった状況です。四十年ぶりの教室、賑やかな食堂、元気な仲間との会話、新鮮な体験の連続となり、心地よい刺激にもなった。格好良く言えば、「会社・経済のあり様」を求める生活から、「心のあり様」「人間のあり様」である。ただ難を言えば、今日「ナルホド」と思っても、翌日には「なんだっけ？」が多い事。でもめげずに、これでいこう。

NEVER TOO LATE

「遅すぎる事は、ありません。」

LET'S STUDY EVERYTHING

「何でも学び、何でも知ろう。」

LET'S ENJOY OUR LIVES

「これからの人生を楽しもう。」

です。

この三年間、シニアの総ての人に感謝・感謝です。後数年間は、園田にお世話になる予定です。よろしく ご指導・ご鞭撻を！

園田学園卒業文

文学歴史学科 宗岡 巖

あわや「屋内不良在庫」を回避できたのは、園田学園のお蔭です。

園田学園の生涯学習については、色々な方々から様子を聞かれることがあります。

その都度、私は三つの点を挙げて説明することにしていきます。

その1は、年間を通しての系統だった中身の濃い講義です。博覧強記にして、日本人に足りないと言われるユーモアを交えた先生方の講義にぐいぐいと引き込まれて行きます。

私の学生時代に、こんな楽しい講義を受けた記憶がありません。

配布いただく資料も充実。勉強嫌いの筈の私が毎回の受講を楽しみにしているのに気がついて、自らその変わりように驚いています。

その2は、先生方が企画して下さるバス旅行や、クラス有志によるツアー、会合など園田ならではの学外行事が少なからずあって楽しみを倍加させています。

その3は、友人の1人を1年の冬に喪うという不幸はあったにせよ、例外なく素晴らしい、そして尊敬すべきクラスメイトに恵まれたことです。

片道1時間半をかけて生涯学習の場に通ったことは正解であったと納得しています。

園田学園女子大学周辺の古墳群

文学歴史学科 村上 安彦

本年日本史学Ⅲの講義において、大学周辺の古墳の紹介があり、それを廻ってみた。

【大井戸古墳】(南武庫之荘大井戸公園内)

古墳時代後期の直径13mの円墳である。

【水堂古墳】(水堂町 須佐男神社)

原型が著しく損なわれているが、古墳時代

前期の前方後円墳。昭和37年の発掘調査で、後円部から粘土に覆われた長さ約1mの割竹形木棺が見つかった。木棺の内側は朱で塗られ、鉄刀、短剣、鉄槍、三角縁三神四獣鏡（径23cm）、胡ろく（矢筒）などが副葬されていた。出土品

は市指定文化財となっている。

その他に【御園古墳】（塚口本町 三菱電機横）【大塚山古墳（天狗塚）】（南清水 大塚山公園内）【南清水古墳】（南清水 須佐男神社）【伊居太古墳】（下坂部 伊居太神社）等がある。

【大井戸古墳】



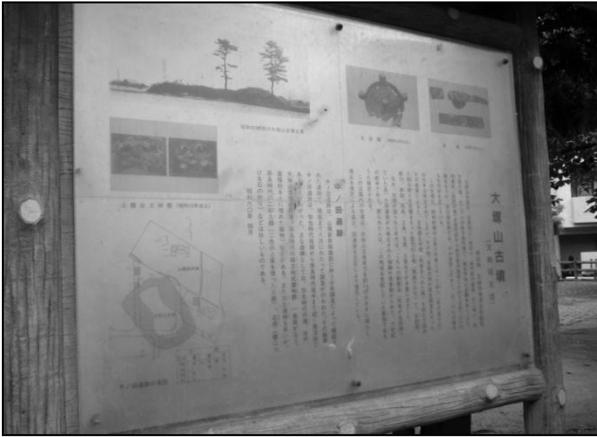
【水堂古墳】



【御園古墳】



【大塚山古墳 (天狗塚)】



【南清水古墳】



【伊居太古墳】



国際文化学科



シニア専修コース就学の思い出

国際文化学科 荒井 皓至

同僚の勧めで以前から望んでいた国際文化学科のお世話になりました。河合教授から聞くオセアニアを含む Native な講義は実に新鮮でした。今まで知り得なかった夢をかきたてられた。

教授の影響を受けその夢を実現させる為、フィジーに旅した。ナンデイーからスバまでバスの車窓に見る荒涼とした風景、素朴なかこいだけのバス停、駅名もない、時刻表など論外だ。欧米旅行の煌びやかさは何処にもない。えらい所に来たと心細くなった。然し、バス内で話しかけてくれたフィジアンから受けた人懐っこく、温厚な人柄が私の印象を変えた。椰子を始め熱帯林の茂り、紺碧に輝く海。フィジアンは温かく・大らかな気性。交歓会で受けた小学校高学年の素晴らしく感性の高い音楽性に驚いた。外国人の学校訪問は初めてとの事。ブラとビナカで明るく接する事の出来る心易さ、常夏の国特有の人間性なのか。文化圏とはほど遠い。もっと若い時に河合教授、紙村講師、吉本講師に出会っておれば私の人生は変わっていたかも知れない。

これが就学3年間で私を変えた全てです。教授連に深く御礼申し上げます。

3年間の学園雑感

国際文化学科 飯田 茂夫

3年間の学園生活は思いのほか短く、昨日の入学が明日の卒業予定といった感じです。

—あわただしい入学と履修科目等に付いて

4月の締め切り間際に“応募申し込みと払い込み”を済ませ国際文化学科に入学を許可されたのは期日間際の滑り込みセーフの状態だった。21年度は国際文化学科18名、文学歴史学科18名、情報学科35名、計71名の入学者でした。

4月17日に入学式を終え、初年度は国際関係 (& 現代世界の諸問題) と文化人類学入門の2科目であったが、新たな気持ちで受講することが出来た。当初予定では3年間“国際関係の学科”の履修を目的に入学したのですが、2年目以降に予定が外れてしまったのには全く面喰ってしまいました。2年次には結構迷ったものでした。文化人類学、多文化共生論、太平洋文化論等は私の学生生活の今までにない新たな分野での講義でしたので、それぞれの意義はありました。

ただ、希望とすればこれらの科目も受講者の選択に任せて頂ければと思ったのは私だけでしょうか？

“西洋史特論”の講義を2年間受講しての感想は、自分が受けてきた高校の歴史教育が如何に浅薄なものであったか、更に今後のチャレンジ目標のきっかけを頂いた気がした。

—学内の施設等について

正門から学園内に続く樹木はその時々に応じて色鮮やかで、ブロンズ像と共に入園者を常に温かく迎えてくれた。久し振りに大学での受講を享受できる気持ちとなった。

閑静な図書館では3年間、書籍、新聞等を落ち着いて読める良き場所を提供してくれ、良く利用させて頂いた。食堂は常に満員、女子大学らしく活気に満ち、カロリー計算が表示されたメニューも比較的安価な価格で提供されていた様に思う。ただ学生の食堂利用の時間が一時に重なる為、座席確保が大変であった。

—課外活動等について

特にYさんの初年度からの積極的且つ献身的な活動もあり、国際文化学科の皆さんは縦、横の交流が良く出来たのではないのでしょうか。私は都合悪く“30周年記念行事”には参加出来ませんでした。 “姫路太陽公園バス旅行” “明石海峡ウォーキング” 懇親会、忘年会等にも参加し、楽しい機会を持つことができました。

来年以降の受講予定は現在白紙の状態ですが、興味を持てる科目があれば引き続き留まることも考えられます。その際にはまた宜しくお願ひ致します。

京の五花街

国際文化学科 神内 重明

私のライフワーク

「チューダー朝に魅せられて」

国際文化学科 岩本 稔

退職後の生活環境の激変の中で、“余生を如何に過ごすべきか”の答えを求め自問自答を長年繰り返して来ましたが、数年前に“時の過ぎゆくままに”（As time goes by）の箴言を偶然に知り、それ以来この命題から解放され、限られた余生を自然体で過ごす大切さを学びました。

その価値観に共感した後、イギリスの発展の基礎を築いた「チューダー朝」（1485～1603）について、好きな映画を通して、自然発生的に興味を持つようになりました。

「チューダー朝」に関する歴史書（ヘンリー8世と6人の妻、チューダー朝、英国王室物語など）を読み、また、「エリザベス1世」「背徳の王冠」「ヘンリー8世」「我が命尽きるとも」等の映画鑑賞、さらに、チューダー朝ゆかりの歴史的な史跡を訪ねる旅（イギリス国内の寺院、大聖堂、城・庭園など）などを繰り返して、「チューダー朝」の理解を深める事をライフワークとして楽しんでいきます。

今後とも、“時の流れの過ぎゆくままに”の自然体の精神で、時間の許す限り、このライフワークに、マイペースで自由に取り組んでいきたいと思っています。



有形、無形文化遺産への関心が高まるなかで京都の伝統的伎芸の一つ舞妓たちの踊る伎芸もあげられる。室町時代に発して、時の将軍足利義植、文安元年（1444）、豊臣秀吉、天正15年（1587）にも愛でられた上七軒をはじめ祇園甲部、宮川町、先斗町、祇園東の五つの花街が京都にはある。平成23年6月19日、第十八回「都の賑い」では 上七軒（北野をどり、花柳流）、祇園甲部（都をどり、井上流）、宮川町（京をどり、若柳流）、先斗町（鴨川をどり、尾上流）、祇園東（祇園をどり、藤間流）とそれぞれのをどりを披露する五花街合同の伝統芸能特別公演が披露されている。

長い歴史、伝統を引き継ぐ舞妓の前には厳しい修業期間があり、舞妓になるには、十の約束、制限もクリアしなければなりません。例えば

（一）両親の承諾が得られること（二）身長が160cm未満（三）体重43キロ以上、なによりも、芸を修める熱意と執念が求められて、置屋への所属が認められるなど、美しい、可愛だけのものではない。五花街は春秋、一同に会して、合同で演舞を披露するなど、舞妓の育成にも努力されている。彼女らへ拍手と声援を贈り、京の伝統伎芸の発展を見守りたいものです。



園田シニアコースの思い出

国際文化学科 岸本 司朗

早いもので平成21年4月に入学以来3年の月日が流れ、今充実した大学生活を振り返ると誠に感慨深いものがあります。毎日学校に通うのが楽しく長い春休み、夏休み中は退屈で、「一日も早く学校が始まらないか」と願ったものでした。先生方はどなたも熱心で、専門的な講義を分かりやすくお話しして下さり、40数年前の学生生活では味わえなかった「学ぶ喜び」を日々感じる事が出来ました。

とりわけ平成23年1～2月にかけて生涯学習センター主催の13日間の「ニュージーランド学外研修旅行」は生涯の楽しい思い出になりました。松成所長をはじめ生涯学習センターの皆様のご尽力で、本学の姉妹校であるクライストチャーチのカンタベリー大学にある園田のドミトリーに4日間滞在した他はレックス、グレッグ両教授、現地在住の矢部さんご夫婦及び松成所長のご案内、通訳で南島を観光旅行するという贅沢な旅でした。通常のパック旅行では味わえないゼミ旅行のような、学友との楽しい旅でした。参加者はシニア、研究生及び公開講座の受講生でしたので普段学校では話す機会のない方達ともお知り合いになり、ありがたいことに帰国してからも親しくお付き合いさせて頂いています。私は、卒業しても編集委員の大変な労作である「けやき便り」第4号に紹介（大阪教育大学堀教授）されているような園田のこ

の素晴らしい生涯学習システムを活用させて頂き、今後も研究生として通うつもりです。

卒業に向けて

国際文化学科 高橋 紀久

校門を抜けけやき通りを歩いて教室へ、多くの若い現役学生達の行きかう姿を目にして、まるでタイムスリップの世界にいるような錯覚。当初、園田学園のシニア専修コースの入学申し込みを決断するにあたり、通学時間が約1時間20分かかるため思案をしていましたが、考えるより実行と思い入学。

国際文化学科を選択し週2科目の授業でしたが、文化人類学、日本史、国際関係、それぞれ専門分野の先生方の中身の濃い講義では、今まで表面的な知識しかなかったものがより深く習得することが出来、また学外授業では、神戸史跡めぐり、国立民族学博物館、正倉院展、ベトナム料理などに参加し新たに見聞を広めることが出来ました。そして同期入学された皆様方との交流の中、当講座以外さまざまな分野でご活躍されているお話など伺い、勇気と元気を与えて頂きました。

幸いにも健康に恵まれ無事に卒業式を迎え、楽しく有意義な学園生活を送らせて頂きありがとうございました。



生きがい求めて

国際文化学科 西阪 順三

早いもので、実社会を卒業して10年になる。その間、神戸市シルバーカレッジ（3年制）を皮切りに阪神シニア（4年制）そして園田学園シニア専修コース（3年制）を駆け足で巡ってきた。

この3校では神戸市シルバーカレッジでの生活環境コースの学習が、一番に印象深く、充実した内容であったと思う。専任の講師が3年間、京都議定書に基づく各分野の環境問題を取り上げ、タイムリーな学習であった。

園田学園では国際文化コースを選んだのが失敗であった。必修科目のほとんどが文化人類学で、選択科目も少なく国際関係を受講するにも曜日が合わなかったり、隔週の学習では興味が半減した。

ただ収穫といえば3校ともよき友に恵まれたことである。在職中にマスターできなかったパソコンの操作を修得して、後継者の指導に当たっている。また小学校の学習支援等のボランティア活動、趣味を生かしたグループ活動など、生きがい求めて今後も歩み続けたい。

あつという間の三年間

国際文化学科 橋田 利生

あつという間の三年間でした。もう卒業するのかもしれないと思ってしまうさみしさがあります。これは私だけの感慨でしょうか。園田学園女子大学のシニア専修コースに在籍したことで、様々な価値観と社会経験を積まれたクラスの友を得ることが出来ました。クラスの特長とでも言えるでしょうか、海外経験の豊富な方々が多く大変、勉強になりました。

私自身も世界に視野を広げるため、この三年間、園田の授業を休んでまで世界に足を運びました。皆様もご存知のとおり、地球が誕生して46億年この間、大陸は分離、移動し今の世界になりましたが、元の大陸は南米大陸です。南米は今なお、地球の歴史を語る大陸です。この三年間で南米各地を回り、昨年1月、ついに南極大陸に上陸することが出来ました。南極半島1,300kmの冒険は、人生で思い出に残る旅となりました。

昨12月、生涯学習30周年記念行事にも参加させて頂き、発表の機会を得たことは、いい経験となりました。

これが南極大陸です

撮影 橋田 利生

H22. 1. 20 15:07 母船から Zodiac で上陸します

南極半島・Yankee Bay に上陸
空と大気全く違います

H22. 1. 20 南極半島 Aityo Island に上陸
ひげペンギン君がお出迎え



H22. 1. 22 サウスシェトランド諸島
流水を枕に昼寝する豹アザラシ君



「園田学園：シニア専修コース」 に学んで

国際文化学科 東 国茂

シニア専修コースの3年間を振り返ると、またたく間に過ぎた感があるが、とても充実した時が持てたとの思いである。以下、その印象を箇条書きに記してみる。

- なんととっても素敵なキャンパスであり、少人数学級で、しかも自由でなごやかな雰囲気にも包まれていて、“学び”にふさわしい環境に恵まれていたと思う。
 - 単発の講演とは異なり、各科目について系統的に学ぶことができ、それぞれの科目の“おもしろさ”に触れることができたと思う。
 - カリキュラムがとても充実していた。国際文化学科の必須科目（1年：「文化人類学入門」、2年：「多文化共生論」、3年：「アジア太平洋文化論」）は、よい構成であると思った。これに加え、「国際文化演習」を専攻したが、テーマを自分で考え、フィールドワークや文献により調べ、原稿を作成することにより、“国際文化”についての興味が一層、深まったように思う。
- 最後に、学問の奥深さをヒューマンにまたフ

レンドリーに教えて頂いた諸先生、ならびにとても学びやすい環境をサポートして頂いた総合生涯学習センターの皆様深く感謝致します。

シニア専修コースを卒業します

国際文化学科 柳田 利康

長いようで短い3年間でした。思い出らしきものは特にありませんが、今まで体験しなかった授業、実践の方法論等を適切に指導して下さった幾人かの先生には感謝の気持ちでいっぱいである。

また、在学中に知り合った数人の友人は、これからも大切に交流を深めていきたい。

私も2012年には70才となり、一つの大きな分岐点に差し掛かろうとしている。健康、気力、感覚等の微妙な変化と戦いつつ、次のステップへ進むつもりである。いろいろな行動予定の先送りはいしたくない。やれる時にやっつけてしまいたい（急に元気でなくなった人を何人も見てきているから）。

在学中のみなさん、これからも現役の時には得られなかった知識、経験をここで得て、これからの人生を大いに楽しんでください。

情報学科



情報学科に学んで

情報学科 古屋敷 邦子

学習成果の集大成として、1月11日(水)にシニア専修コースの課題研究発表会がありました。課題研究は3コースあり、Aコースはホームページ、Bコースは冊子作成、Cコースは写真集の作成です。

各自それぞれ希望のコースを選び、テーマは自由設定です。夏休み返上で資料収集・写真撮影と、密度の濃い時間を過ごしました。

「こんなことが出来るのか」「なるほど!このようにレイアウトすると、いきてくるのか」「このアングル・色遣いの素晴らしいこと」等々感動と驚きがあり、多士済々、皆さん力作揃いで楽しい時間でした。

何にもまして、作品制作を通じて人と人との繋がりが深まりました。連帯感も芽生えました。一つのモノを作り上げることが出来たという達成感とともに、先生方のご指導の下、確実なステップを一步踏み出せたと思っています。

まさに一期一会

卒業後も本学の研究生として、引き続き学ぶことを決めています。

情報学科で頑張りました

(振り返って)

情報学科 佐久間 登志子

研究課題Bの冊子に書いていましたが、今思うとおかしいのですがとにかく何かしないといけないとあせっていました。当時はなんだか私自身が消えてしまいそうな気がしていました。会社生活

卒業(定年退職)の後、数年の所でこの空虚さと寂しさのどうしようもない心の空洞を埋めるのはどうしたら良いのかと悩んでいた矢先に聴



講生制度を知り、会社に行きながら受講致しました。

色々なユニットを完成しましたが中でも心に残っているのは、

★ユニット24 あなたも作曲家

で当時はやっていた「冬のソナタ」を編曲しました。

課題内容は*3トラック以上、*3つの音色以上、*64小節、*リズム楽器の入力

わたしの選んだのは大変静かな曲のためパーカッション一覧表から選定するのにああでもない!こうでもない!と大変苦勞した覚えがあります。

仕上げに長くかかりましたが一つ一つ五線譜に楽しく音符を貼り付けました。

また

★ユニット42 シムカンパニー

課題内容は1、履歴書作成、2、リーダー昇進にむけて——案件5通、3、チーフ昇進に向けて——案件5通、4、旅行企画書作成と文書の作成をして上がっていくのですが、会社生活の経験が生かされてクリア出来ました。担当していただいた堀田先生を勝手にマネージャーや課長、主任にしたてて利用させていただきました。

最終まで2、3ヶ月かかり最後の旅行企画書作成が終わりほっとし堀田先生から大変よく出



来ています。とメールをいただき大変うれしく充実感を覚えました。

また、今回は課題研究Bの

冊子作成に取り組みましたが、表紙を除いて20枚のページでテーマが決まるまでかなりの時間を費やしました。やっとタイトルは“ちょっと寄り道コーヒータイム”にして Introduce SAKUMA、私の住んでいる川西市のこと、当年の行事を書くことにしました。使い慣れ親しんだコンピュータが2007年に更新されたので、リボンの使い勝手が違うし20枚ものページを埋める

ことが出来るのかと大変危惧しましたが、

川西市のことを調べたり、図書館に行ったり本を捜したり、写真を撮りにでかけたりしているうちに、だんだんと楽しくページが進んで行きました。

また、H23-10/7から10/10まで中国の泰安、曲阜、北京に出かけました。その間に世界遺産の階段ばかりの泰山に登り、その時のことを書こうと、4ページ空けていましたがページ数が多くなり縮めるのに大変苦労しました。

冊子作成には担当の稲熊先生に大変お世話になり、締め切りまでに何とか仕上げる事ができましたし、楽しく充実した日々を過ごす事が出来ました。

何よりも、休憩しようと言っては友人と食堂でコーヒーを飲みながらお喋りに花咲かす事です。

編集後記

「けやき便り」も平成22年10月創刊以来、この特別号で5号発行の運びとなりました。これも投稿いただいた皆様と、印刷から配布まで支えていただいた総合生涯学習センターの皆様のおかげと感謝しています。

このたび卒業生の方々も、明日への旅立ちの日を迎えられましたが、来月には新入生を迎え新たな学園の生活も始まりますので、「けやき便り」編集クラブの輪も昨年以上に大きく広げられれば幸いです。

なお、この5号まではご協力いただきました皆様のおかげで、サービス配布させていただいておりましたが、従来より編集や校正等にかかる費用が一部部員の負担となっており、その費用も個人では限界となってきましたので、申し訳ありませんが若干の費用分担をお願いすることとなりました。

今後ともより良い「けやき便り」継続のために、皆様のご協力よろしくお願い申し上げます。

「けやき便り」編集クラブ代表 木下 俊造



文学歴史学科2年 木下 俊造 画